

## 特集の意図

スペリーが分離脳について論文を発表してから 60 年あまりが経ち、分離脳はさまざまな解釈されてきた。現在では脳の左右差に基づき、脳梁離断術などの外科治療も行われている。神経科学、脳神経外科学、神経内科学の接点となる「左脳と右脳」について、あらためて現在地を確認したい。

## 特集の構成

1. 鼎談 スペリーのレガシー【渡辺英寿×河村 満×酒井邦嘉(司会)】 スペリーらの 1958 年の論文が現在に与えた影響や、そこから得られるヒントについて話す。脳梁を離断すると何が起きるかなど、本特集の前提となる話題を盛り込んだ。特集全体のオーバービューとして最初に読むとよいだろう。
2. 頭頂連合野における左右差 — 半側空間無視、身体イメージあるいは身体図式(近藤正樹) 半側空間無視と身体表象に関する研究のレビューをとおして、頭頂連合野の左右差について考察する。左右の頭頂連合野はそれぞれ多面的な役割を果たしつつも、空間、身体の意識化については右半球が優位、身体の認知情報処理については左半球が優位と考えられる。
3. 社会性と左右差(小早川睦貴) 情動や心の理論といったコミュニケーション機能を担う内側前頭前野、上側頭溝周辺領域、側頭頭頂接合部の左右差を概説する。あいまいな情報の読み取りにおいては右半球の優位性がみられ、より分析的な側面については左半球が関与していると言える。
4. 前頭連合野における左右差 — 統辞処理関連の神経回路(金野竜太、酒井邦嘉) 言語の統辞処理において主要な機能を担うとされる左前頭連合野を中心に、前頭連合野の左右差を考察する。統辞処理には右前頭連合野や側頭連合野、頭頂連合野、小脳も関与していることが明らかになり、左右大脳半球間での情報伝達が重要な役割を果たすことが示唆される。
5. 脳梁離断術の現在(渡辺英寿) 薬剤抵抗性のてんかんにおいて焦点切除が難しく、日常的に危険を伴う発作がある場合には脳梁離断術が考慮される。本邦で術数が増えているこの治療について、歴史やメカニズム、診断基準、治療法、副作用など、その全体を概説する。
6. 右手利きと左手利き(山下 光、瀬知亜有未) 左手利きは民族、文化を超えて約 10%と少数派であり、古くから偏見や差別が存在した。研究の中で左手利きをどう位置づけるかという問題や右手利き者と左手利き者の脳の違いについて、著者の研究を踏まえながら共生社会における右手利きと左手利きのこれからを考察する。